

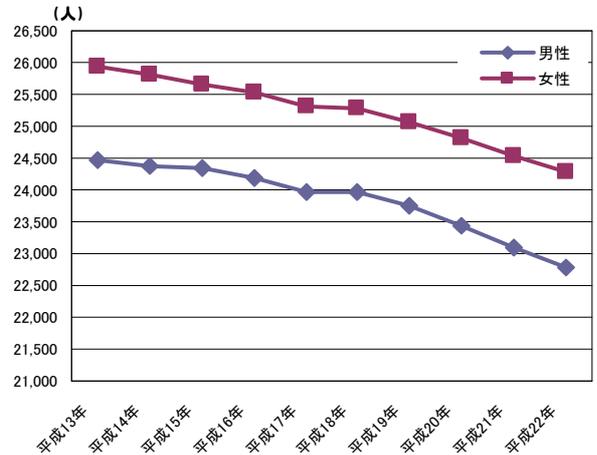
第3章

現状把握と抽出された課題

1 既存資料からみた現状と課題

(1) 人口の推移(住民基本台帳より)

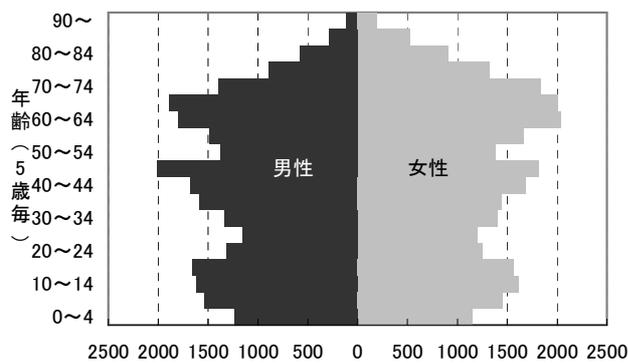
郡上市の人口は男女とも年々減少傾向にあり平成13年4月で男性24,470人、女性25,923人の計50,393人であったのが、平成22年4月には男性22,790人、女性24,292人の計47,082人となっています。



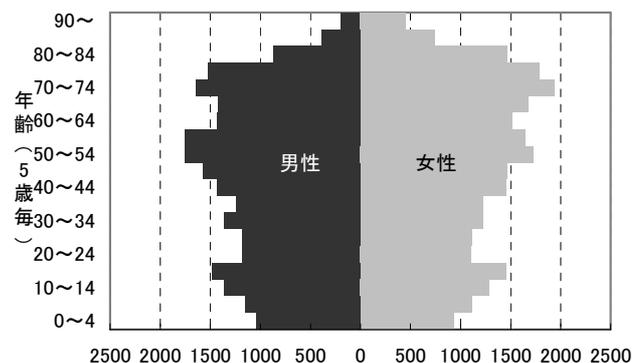
(2) 人口ピラミッド(住民基本台帳より)

郡上市の人口ピラミッドは、20～30歳代にくびれを持ち、更に高齢部分の人口の多い広口のつぼ型の形を示しています。つぼ型は出生数の減少によって自然増加率がマイナスになり将来人口の減少が予想される型であり、これに加えて若年生産年齢の流出と高齢者の顕著な増加が認められる状態となっています。

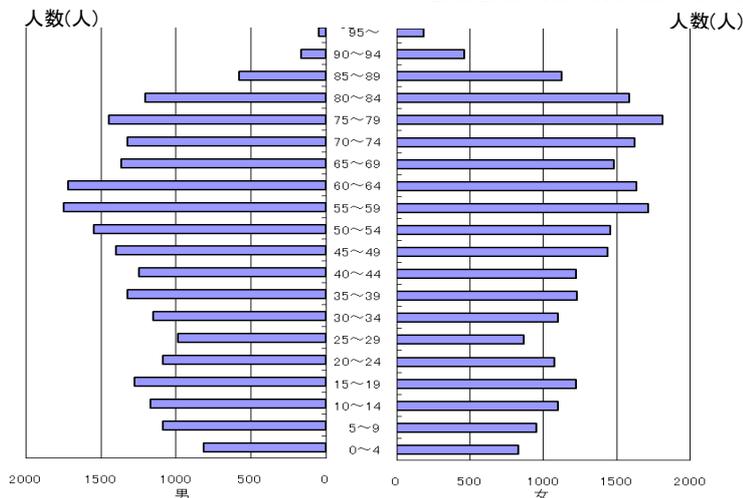
平成8年



平成17年



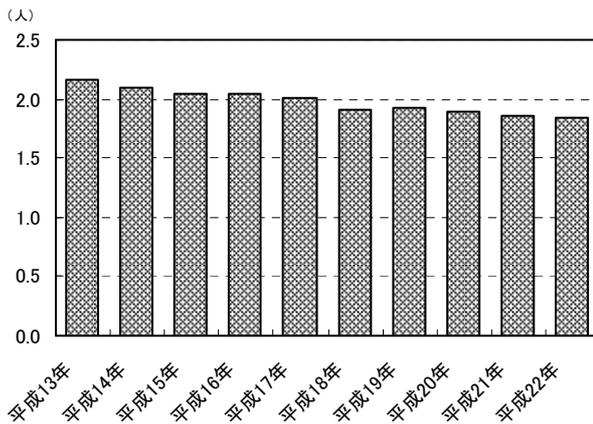
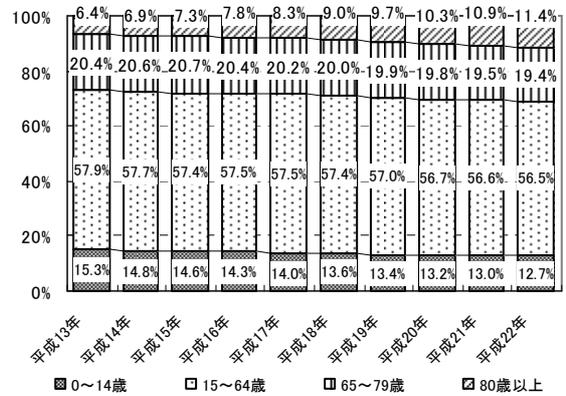
平成22年



(3) 年少・生産・老年人口割合

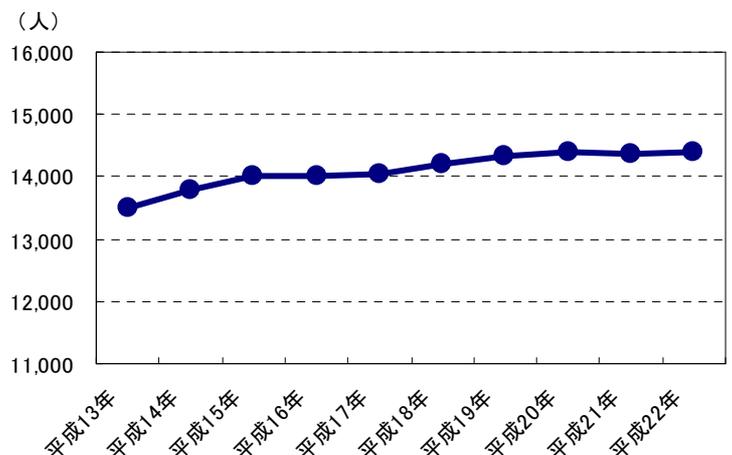
(住民基本台帳より)

15歳未満の年少人口割合、15～64歳の生産人口割合は年々わずかながら減少傾向にあり、65歳以上の老年人口割合は増加しています。特に80歳以上の後期高齢者割合の増加が目立ちます。平成22年4月現在で年少人口12.7%、生産人口56.5%、老年人口(いわゆる高齢化率)30.8%です。



65歳以上1人に対する生産年齢人口はこの10年間で2.0人を下回っています。

65歳以上人口実数の推移は、ここ数年はややその増加数が鈍くなってきているものの、増加の一途をたどっており、平成22年4月現在で約14,400人となっています。



(4) 人口推計

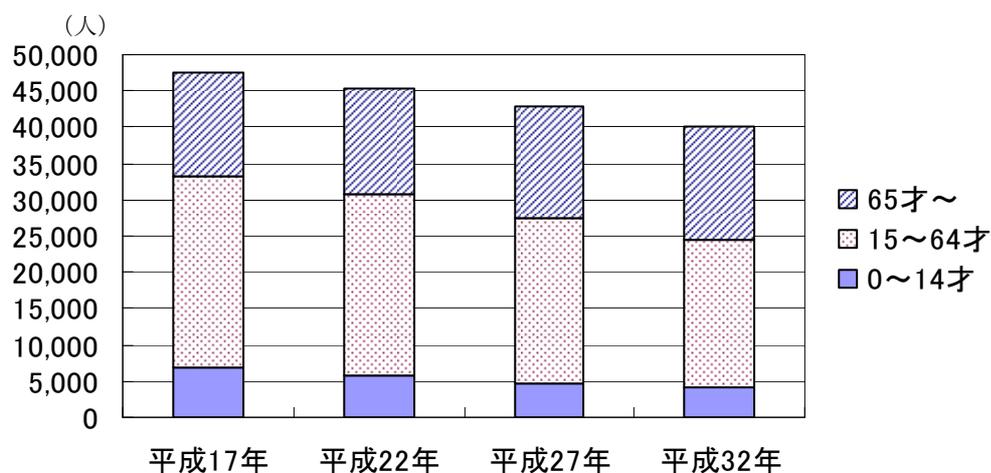
平成17年の国勢調査を踏まえた本市の将来推計人口（平成20年12月国立社会保障・人口問題研究所公表）は、平成27（2015）年に42,783人（平成17年国調比△4,712人）、平成32（2020）年に40,076人（平成17年国調比△7,419人）になると予測されます。

全国的な人口減少時代の到来の中で、本市は人口構成の状況から今後も人口の減少が続くものと推測されます。

(人)

	平成17年	平成22年	平成27年	平成32年
	(2005)	(2010)	(2015)	(2020)
0～14才	6,752	5,729	4,786	3,989
(構成比)	(14.2%)	(12.6%)	(11.2%)	(10.0%)
15～64才	26,507	25,001	22,747	20,551
(構成比)	(55.8%)	(55.2%)	(53.2%)	(51.2%)
65才～	14,236	14,583	15,250	15,536
(構成比)	(30.0%)	(32.2%)	(35.6%)	(38.8%)
総数	47,495	45,313	42,783	40,076

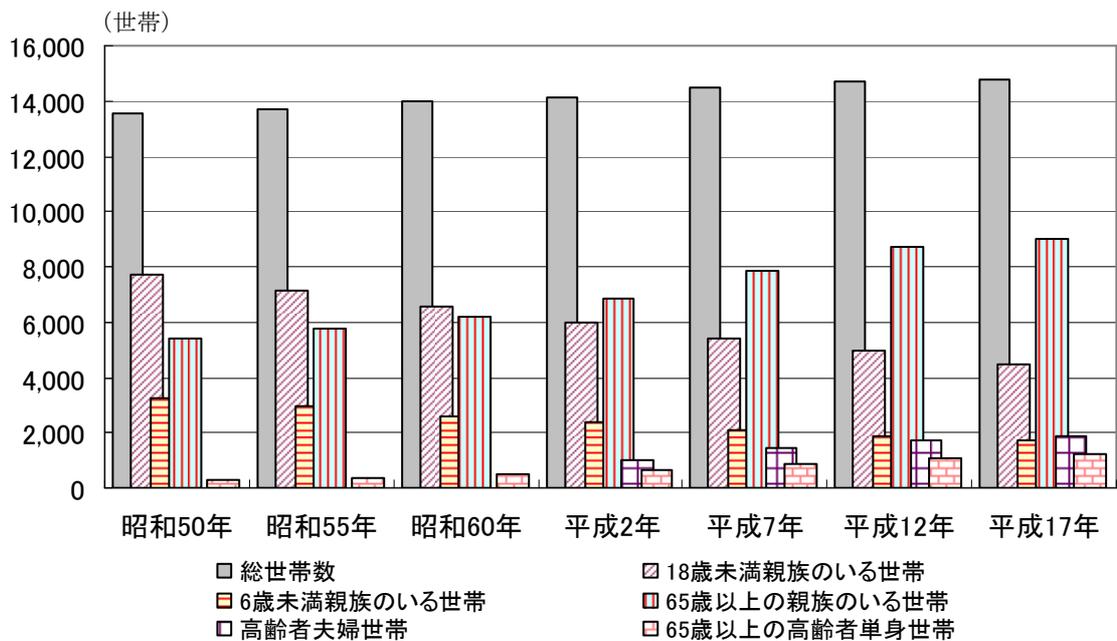
国立社会保障・人口問題研究所「日本の将来人口推計」（平成20年12月推計）より



(5) 世帯数・世帯構造(国勢調査より)

区 分	昭和50年	昭和55年	昭和60年	平成2年	平成7年	平成12年	平成17年
総世帯数	13,581	13,662	13,964	14,137	14,455	14,683	14,759
18歳未満親族のいる世帯	7,739	7,124	6,591	6,018	5,426	4,944	4,445
6歳未満親族のいる世帯	3,221	2,940	2,623	2,405	2,105	1,907	1,707
65歳以上の親族のいる世帯	5,384	5,750	6,188	6,868	7,883	8,727	9,020
高齢者夫婦世帯	—	—	—	1,018	1,437	1,754	1,905
65歳以上の高齢者単身世帯	291	357	518	673	879	1,085	1,225

世帯数はわずかではあるが増加傾向にあり、平成17年国勢調査では14,759世帯であります。その構成変化は特徴的であり、18歳未満親族のいる世帯は減少し、65歳以上親族のいる世帯は増加しています。高齢者夫婦世帯、高齢者単身世帯も増加しています。



高齢者に関する世帯構成をみてみると、65歳以上の親族のいる世帯は平成2年の49%から平成17年には61%に増加しており、このうち高齢者夫婦世帯、高齢者単身世帯はそれぞれ7%から13%、5%から8%に増加しています。高齢化だけではなく、高齢者を支える家族構成数の減少も示唆されます。

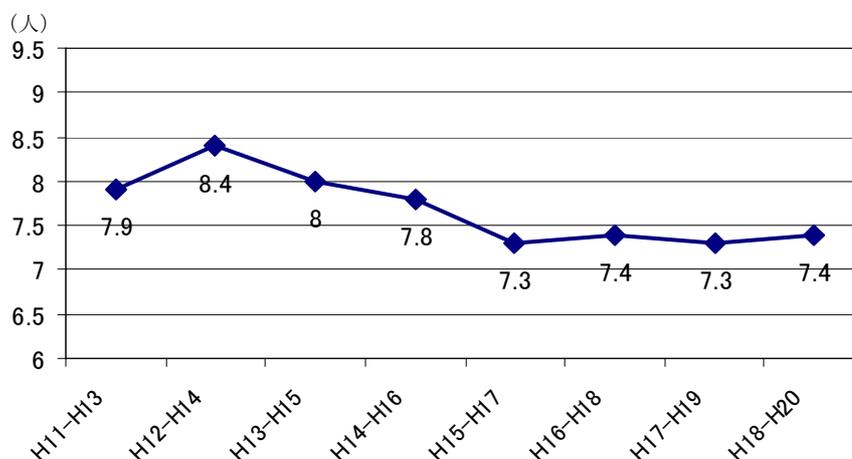
一方、小児に関する世帯構成をみてみると、18歳未満の親族のいる世帯は平成2年の43%から平成17年には30%に減少しています。

(6) 出生率推移

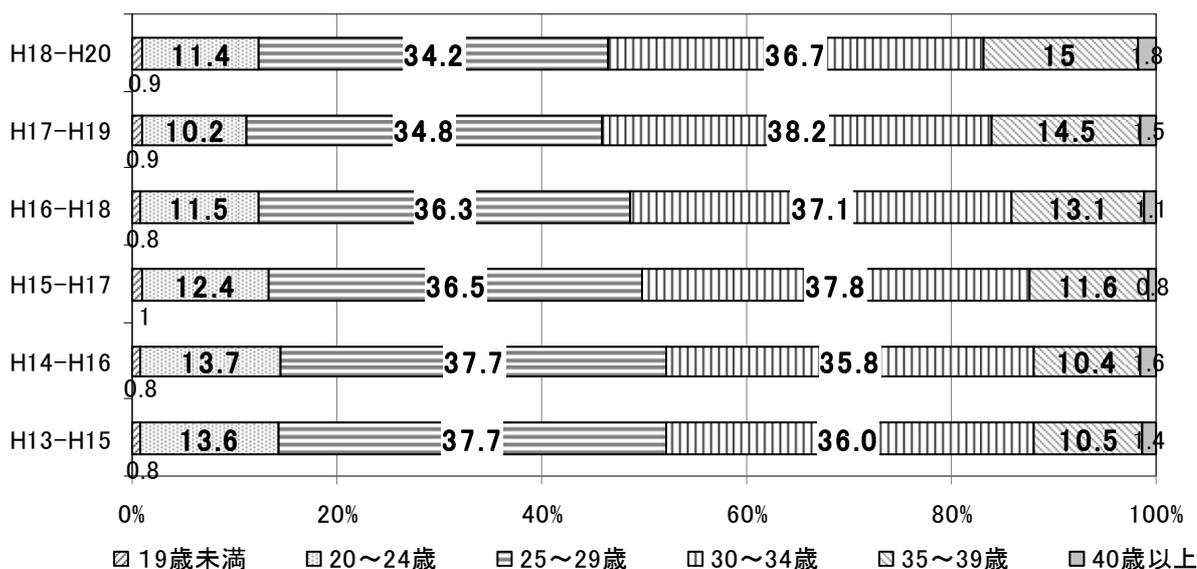
出生率の経年的変化を見てみると減少傾向にはあるものの、ここ数年は横ばい傾向であります。平成18年からの3年間で出生率は人口1000人当たり7.4人で、郡上市における年間出生数はおよそ320人です。

出生率（人口1,000対）の推移

（出生数が少ないため3年間を1群として1年ずつ移動させることで表示）



出産年齢は、25～29歳での出産割合が減少しています。一方、20～24歳、30歳以上が増加しています。

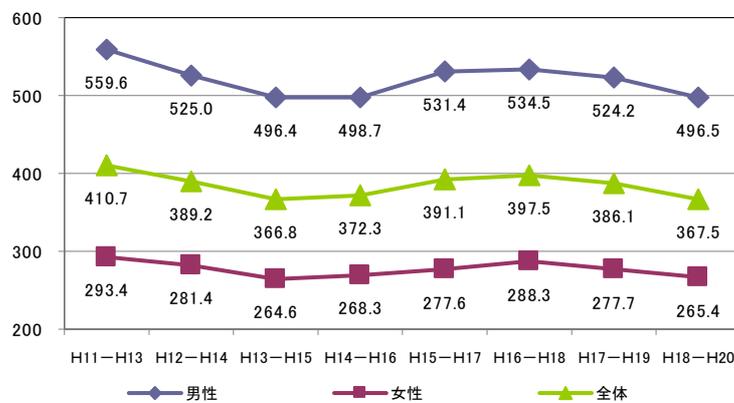


(7) 死亡関係統計量

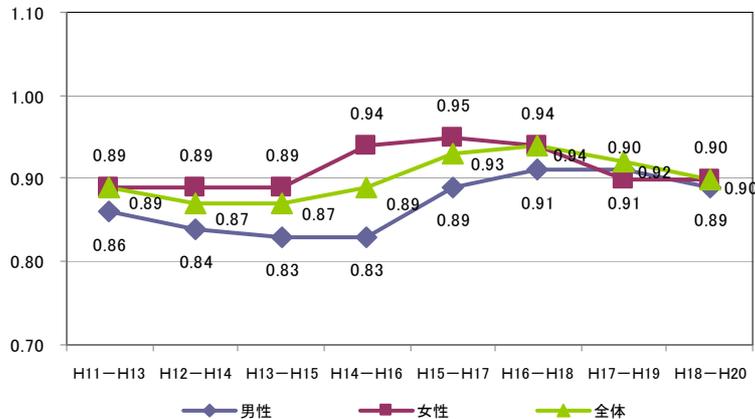
死亡数

	平成13年	平成14年	平成15年	平成16年	平成17年	平成18年	平成19年	平成20年
男性	276	233	270	291	307	299	307	290
女性	200	231	243	254	259	262	240	285
計	476	464	513	545	566	561	547	575

年齢調整死亡率（人口10万対）



標準化死亡比

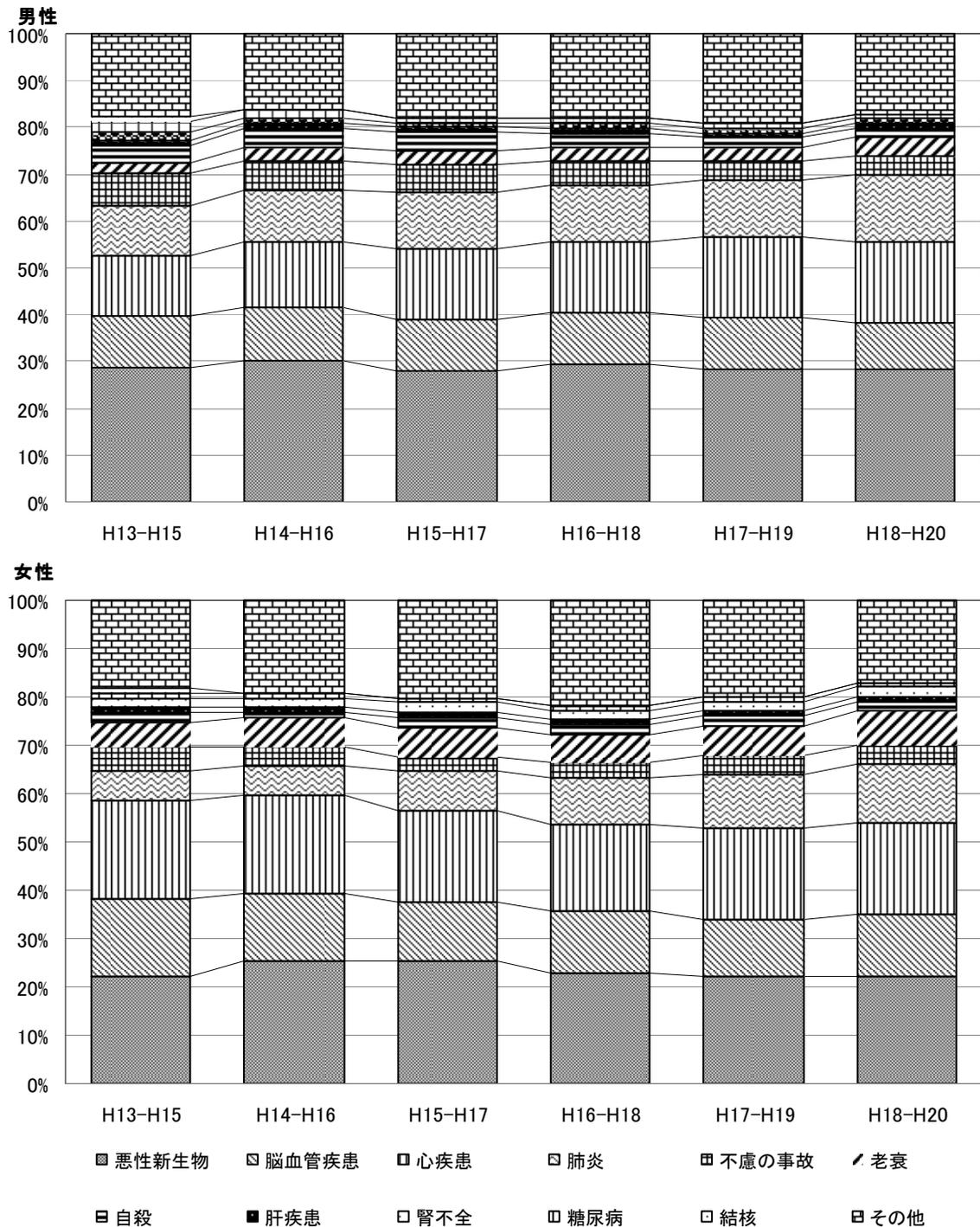


なお、死亡に関する解析は死亡数が少ないため統計解析上ばらつきが生じやすいため、3年を1群として1年ごと移動させることによって表示

1985年モデル人口を用いた年齢調整死亡率*の推移（上図）を見てみると、男女とも減少傾向が認められ、平成13年から3年間は人口10万人当たり366人の年齢調整死亡率となっています。一方、該当年の全国の年齢階級別死亡率から郡上市における期待死亡数を算出し、実際の死亡数との比をとった標準化死亡比（1であれば全国と同じ、1未満であれば全国より少なく、1以上であれば全国より多い）の推移（下図）は男女とも1未満で推移しています。

*年齢調整死亡率：人口規模や年齢構成が異なる圏域や市町村の死亡数を基準人口（1985年モデル人口）で補正し、それぞれの集団の死亡率の特徴を示す指標。

死因別割合



死因については、男女とも悪性新生物、脳血管疾患、心疾患で死因の60～70%を占めています。男性では悪性新生物が占める割合が、女性では心疾患の占める割合がやや増加しています。ただしこれらの割合は単純比較であり、年齢構成の違いが考慮されていないので解釈には注意を要します。

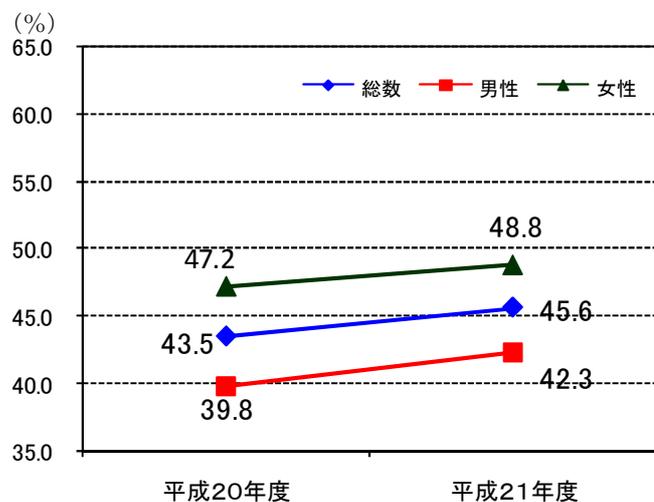
(8)健(検)診関係統計

平成20年4月から医療保険者（国保・被用者保険）において、40歳以上の被保険者、被扶養者を対象とするメタボリックシンドローム（内臓脂肪症候群）※に着目した健診及び保健指導の事業実施が義務づけられました。

郡上市においては、40歳以上の国民健康保険者を対象に特定健康診査を実施しています。特定健康診査受診率の目標は65%ですが、郡上市の現状では45.6%です。

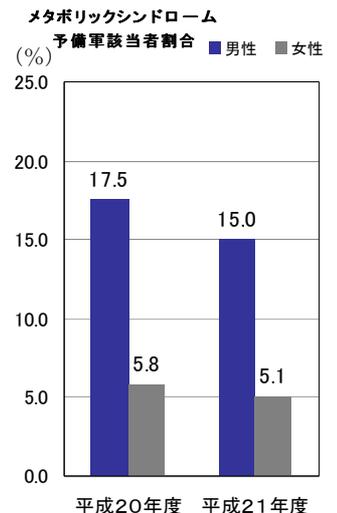
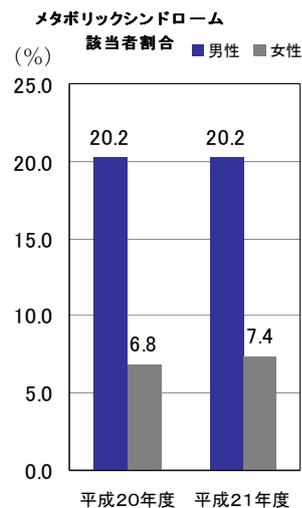
国保特定健康診査の実施状況(法定報告確定数)

実績	平成20年度	平成21年度
対象者数(総数)	8,979	8,890
男性	4,508	4,461
女性	4,471	4,429
受診者数	3,906	4,052
男性	1,794	1,889
女性	2,112	2,163
受診率(総数)	43.5	45.6
男性	39.8	42.3
女性	47.2	48.8



国保特定健康診査受診者のメタボリックシンドロームに関する状況

実績	平成20年度	平成21年度
メタボリックシンドローム 該当者数(人)	506	541
男性	363	382
女性	143	159
メタボリックシンドローム 予備軍該当者数(人)	438	395
男性	315	284
女性	123	111

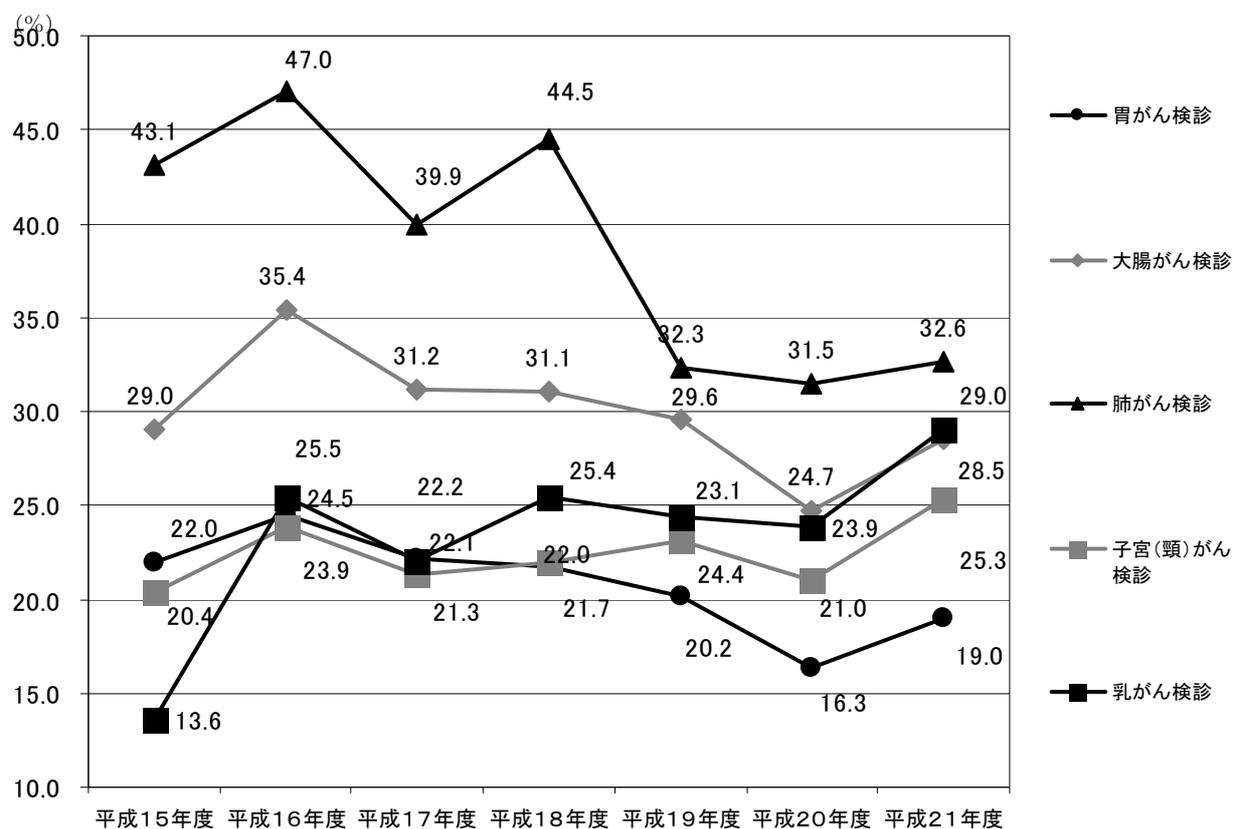


※内臓脂肪型肥満に加えて、高血糖、高血圧、脂質異常のうちいずれか2つ以上を合わせもった状態を、メタボリックシンドローム（内臓脂肪症候群）といいます。内臓脂肪が過剰にたまっていると、糖尿病や高血圧症、高脂血症といった生活習慣病を併発しやすくなります。また、「血糖値が高め」「血圧が高め」など、まだ病気とは診断されない予備群であっても、動脈硬化が急速に進行することがあります。

がん検診の実施状況

がんは死亡原因の第一位を占めており、罹患者の生命を脅かしています。このため、がんの早期発見、早期治療を目的に、胃がん、大腸がん、肺がん、子宮（頸）がん、乳がん検診を行っています。受診率50%を目標としており、乳がん、子宮（頸）がん検診については微増傾向であります。胃がん、大腸がん、肺がんについては減少傾向にあります。

区分	実績	平成15年度	平成16年度	平成17年度	平成18年度	平成19年度	平成20年度	平成21年度
胃がん検診	対象者数	20,495	18,860	21,253	21,802	22,748	25,479	22,675
	受診者数	4,501	4,621	4,814	4,724	4,591	4,161	4,300
	受診率	22.0	24.5	22.2	21.7	20.2	16.3	19.0
大腸がん検診	対象者数	23,985	19,619	21,988	22,394	23,576	25,646	23,098
	受診者数	6,958	6,941	6,860	6,968	6,987	6,334	6,580
	受診率	29.0	35.4	31.2	31.1	29.6	24.7	28.5
肺がん検診	対象者数	21,237	21,997	23,238	21,328	27,238	23,967	21,845
	受診者数	9,150	10,343	9,279	9,495	8,806	7,560	7,116
	受診率	43.1	47.0	39.9	44.5	32.3	31.5	32.6
子宮（頸）がん検診	対象者数	15,020	14,295	17,337	17,315	17,077	19,007	17,880
	受診者数	3,061	3,421	3,708	3,805	3,952	3,999	4,528
	受診率	20.4	23.9	21.3	22.0	23.1	21.0	25.3
乳がん検診	対象者数	15,160	12,468	13,774	13,092	13,080	14,792	13,908
	受診者数	2,058	3,181	3,050	3,319	3,191	3,542	4,035
	受診率	13.6	25.5	22.1	25.4	24.4	23.9	29.0



2 実態把握調査結果(2010年)と課題

本計画は、計画の達成状況を評価できるよう、健康福祉行動の課題の調査項目に、2010年度の数値目標値の設定がされております。

今回、次の対象者にアンケートを配布し、実態把握調査を実施しました。

- 保育園児、幼稚園児
- 小学校、中学校、高等学校の児童生徒
- 一般市民（18～64歳）
- 高齢者（65～85歳）
- 介護者（平成22年6月に新規介護認定申請者、要支援・介護者）
- 妊産婦（平成21年4月1日～平成22年3月31日までに市内で出産）

なお、調査方法については、園児や児童生徒は園や学校を通じてアンケートを配布、一般者等に対するアンケートは郵送、回収しました。回収状況は、総数で8,984票を配布、7,653票を回収し、回収率が85.2%となりました。

この表の見方

課題名	項目	2005年度 現状	2010 年度 目標値	2010年度 現状	推進度 (前回 対比)	目標達 成度
規則正しい 生活をする	毎日大便していない子の割合を減らす	男子 22.1% 女子 26.3%	20.0%	男子 23.2% 女子 20.0%	×	×
	夜9時までに寝る子の割合を増やす	男子 5.2%	5.0%	男子 5.2%	○	×
	子どもがテレビを見たり、ゲームをする時間が2時間以下の子の割合を増やす	男子 1.2% 女子 1.2%	1.0%	男子 1.2% 女子 1.2%	△	×
事故予防	チャイルドシートの着用率を高める	男子 98.0% 女子 98.0%	98.0%	男子 98.0% 女子 98.0%	○	○
良い食習慣 を持つ	食べ物に好き嫌いのある子の割合を減らす	男子 5.2% 女子 5.2%	5.0%	男子 5.2% 女子 5.2%	×	×
	毎日朝食を食べていない子の割合を減らす	男子 5.2% 女子 3.7%	2.0%	男子 5.2% 女子 1.6%	×	△
	よくかんで食べている子の割合を増やす	男子 72.0% 女子 78.5%	70.0%	男子 72.0% 女子 78.5%	○	○

【推進度(前回対比)】
2005年度と2010年度のアンケート結果を比較しています。
《記号の見方》
○・・・男女とも良くなった
△・・・男女どちらかが良くなった
×・・・男女とも悪くなった

【目標達成度】
2010年度のアンケート結果が目標値を達成したかを示しています。
《記号の見方》
○・・・男女とも達成した
△・・・男女どちらかが達成した
×・・・男女とも達成できなかった

(1) 乳幼児期(0～6歳)実態調査

課題名	項目	2005年度 現状	2010年度 目標値	2010年度 現状	推進度 (前回対比)	目標達成度
規則正しい 生活をする	毎日大便していない子の 割合を減らす	男児 22.1% 女児 26.3%	20.0%	男児 23.2% 女児 30.6%	×	×
	夜 9 時までには寝る子の割 合を増やす	男児 62.6% 女児 50.0%	68.0%	男児 67.4% 女児 65.3%	○	×
	子どもがテレビを見たり、 ゲームをする時間が 2 時 間以下の子の割合を増や す	男児 78.5% 女児 80.8%	90.0%	男児 76.3% 女児 82.6%	△	×
事故予防	チャイルドシートの着用 率を高める	69.4%	80.0%	83.1%	○	○
良い食習慣 を持つ	食べ物に好き嫌いのある 子の割合を減らす	男児 63.6% 女児 64.0%	50.0%	男児 72.4% 女児 66.2%	×	×
	毎日朝食を食べていない 子の割合を減らす	男児 5.2% 女児 3.7%	2.0%	男児 2.8% 女児 1.6%	○	△
	よくかんで食べている子 の割合を増やす	男児 72.0% 女児 78.5%	100.0%	男児 75.5% 女児 82.5%	○	×

調査結果からみた課題

●規則正しい生活をする

毎日大便をしていない子の割合は、男児は1.1ポイント、女児は4.3ポイント増えており、目標値には達していません。

夜9時までには寝る子の割合は、男児は4.8ポイント、女児は15.3ポイント増えており、ほぼ目標値に達しています。

子どもがテレビを見たり、ゲームをする時間が2時間以下の子の割合は、男児は2.2ポイント減り、女児は1.8ポイント増えています。いずれも目標値には達していません。

幼児期に早寝早起きなどの規則正しい生活習慣を身につけることは、心身の調子を整え成長を促すだけでなく、今後の人生の基礎を築くのに重要です。そのため今後も、幼児期から規則正しい生活習慣を身につけることが大切です。

●事故予防

チャイルドシートの着用率は、13.7ポイント増えており、目標値に達しています。

引き続き、法に従いチャイルドシートの着用を徹底する取組みが大切です。

●良い食習慣を持つ

食べ物に好き嫌いのある子の割合は、男児は8.8ポイント、女児は2.2ポイント増えており、目標値には達していません。

毎日朝食を食べていない子の割合は、男児は2.4ポイント、女児は2.1ポイント減っています。男児はほぼ目標値に達しており、女児は目標値に達しています。

よくかんで食べている子の割合は、男児3.5ポイント、女児4.0ポイント増えていますが、目標値には達していません。

乳幼児期に味覚や食習慣の基礎が形成されることから、引き続き、乳幼児期から好き嫌いをなくすこと、規則正しく食事をとる等の食習慣を身につけることが必要です。

また、食べることは生きるための基本であり、健やかなところとからだの成長に欠かせないものです。そのため今後は、家族で食への関心と食に関する知識を深めることが大切です。

(2) 学童・思春期(7~18歳)実態調査

課題名	項目	2005年度 現状		2010 目標値	2010年度 現状		推進度 (前回 対比)	目標達 成度
アルコール 対処	酒を飲んだことのある子の割合を減らす (お菓子・料理のお酒は除く)	小中学生 平均	男子 64.4% 女子 59.2%	0.0%	小中学生 平均	男子 45.7% 女子 37.2%	○	×
	高校平均	男子 80.9% 女子 83.2%	高校平均		未調査			
良い食 習慣を 持つ	毎日朝食を食べている子の割合を増やす	小中学生 平均	男子 90.5% 女子 90.4%	95.0%	小中学生 平均	男子 94.9% 女子 96.3%	○	△
	ジュースを毎日飲む子の割合を減らす	小中学生 平均	男子 19.3% 女子 15.3%	10.0%	小中学生 平均	男子 28.8% 女子 23.1%	×	×
	夕食後にお菓子を毎日食べる子の割合を減らす	小中学生 平均	男子 8.5% 女子 7.8%	3.0%	小中学生 平均	男子 7.4% 女子 6.7%	○	×
	薄い味付けが体に大切と分からない子の割合を減らす	小中学生 平均	男子 26.9% 女子 25.9%	15.0%	小中学生 平均	男子 19.5% 女子 14.8%	○	△
性教育 ・ 性行動	性の悩みについて相談できる子の割合を増やす	小中学生 平均	男子 27.6% 女子 56.4%	男子 50.0%	小中学生 平均	未調査	○	×
	人工妊娠中絶の害を知っている子の割合を増やす	高校平均	男子 46.4% 女子 61.9%	70.0%	高校平均	男子 35.0% 女子 43.9%		
	エイズを予防する方法を知っている子の割合を増やす	高校平均	男子 81.8% 女子 81.1%	90.0%	高校平均	男子 78.2% 女子 72.9%		
防煙・禁煙・分煙	タバコを吸ったことのある子の割合を減らす	小中学生 平均	男子 7.2% 女子 3.2%	0.0%	小中学生 平均	男子 4.8% 女子 2.0%	○	×
	喫煙経験があり1ヶ月間にタバコを吸ったことのある子の割合を減らす	高校平均	男子 16.8% 女子 8.9%	0.0%	高校平均	未調査	—	—

課題名	項目	2005年度 現状		2010 目標値	2010年度 現状		推進度 (前回 対比)	目標達 成度
規則正しい生活をする	毎日大便していない子の割合を減らす	小中学生 平均	男子 29.3% 女子 40.9%	男子 20.0% 女子 25.0%	小中学生 平均	男子 30.3% 女子 43.2%	×	×
	登校日テレビを3時間以上みている子の割合を減らす	小中学生 平均	男子 18.2% 女子 18.7%	10.0%	小中学生 平均	男子 15.7% 女子 14.4%	○	×

調査結果からみた課題

●アルコール対処

酒を飲んだことのある子の割合は、小中学生平均男子は18.7ポイント、女子は22.0ポイント減っていますが、目標値には達していません。高校生については、2010年度は未調査です。

未成年の飲酒は法律によって禁止されていることや、注意力や判断力の低下など飲酒によってもたらされる害について学ぶことが大切です。そのため今後も、本人のみならず、家族や地域住民も共に学び、飲酒について判断できる能力を身につけることが必要です。

●良い食習慣を持つ

毎日朝食を食べている子の割合は、小中学生平均男子は4.4ポイント、女子は5.9ポイント増えています。男子はほぼ目標値に達しており、女子は目標値に達しています。

ジュースやスポーツ飲料を毎日飲む子の割合は、小中学生平均男子は9.5ポイント、女子は7.8ポイント増えており、目標値には達していません。

夕食後にお菓子を毎日食べる子の割合は、小中学生平均男子は1.1ポイント、女子は1.1ポイント減っていますが、目標値には達していません。

薄い味付けが体に大切と分からない子の割合は、小中学生平均男子は7.4ポイント、女子は11.1ポイント減っています。女子は目標値に達していますが、男子は達していません。食べ物の好き嫌いやダイエット志向など食生活が乱れやすい時期ですが、高血圧・糖尿病・脂質異常症などの生活習慣病の予防には、生活習慣の形成期である幼児期、さらには学童・思春期からの健康的な食習慣が大切です。そのため今後も、食べ物と健康の関係について学び、自分に必要な食事や栄養について理解し、実践する力を身につけることが大切です。また、食べることは、生きるための基本であり、健やかなところとからだの成長に欠かせないものです。そのため今後も、食への関心と、食に関する知識を深める取り組みが大切です。

●性教育・性行動

性の悩みについて相談できる子の割合は、高校生平均男子は7.7ポイント、女子は5.5ポイント増えていますが、目標値には達していません。小中学生については、2010年度は未調査です。

人工妊娠中絶の害を知っている子の割合は、高校生平均男子は11.4ポイント、女子は18.0ポイント減っており、目標値には達していません。

エイズを予防する方法を知っている子の割合は、高校生平均男子は3.6ポイント、女子は8.2ポイント減っており、目標値には達していません。

現代の社会は、携帯電話やインターネットの普及などの影響を受け、性行動の低年齢化が進み、十代の望まない妊娠、人工妊娠中絶、性感染症、性犯罪の被害が増加しています。そのため今後も、いのちの教育等本人だけでなく家族、学校、地域が性について正しい知識を持ち、性に関して正しく判断できる能力を身につけることが必要です。

●防煙・禁煙・分煙

タバコを吸ったことのある子の割合は、小中学生平均男子は2.4ポイント、女子は1.2ポイント減っていますが、目標値には達していません。

高校生について、喫煙経験があり1ヶ月間にタバコを吸ったことのある子の割合は、2010年度は未調査です。

未成年が喫煙禁止等法律を守ることや、喫煙の害について学ぶことが大切です。そのため今後も、本人のみならず、家族や地域住民も共に学び、喫煙について判断できる能力を身につけることが必要です。

●規則正しい生活をする

毎日大便をしていない子の割合は、小中学生平均男子は1.0ポイント、女子は2.3ポイント増えており、目標値には達していません。

登校日にテレビを3時間以上見ている子の割合は、小中学生平均男子は2.5ポイント、女子は4.4ポイント減っていますが、目標値には達していません。

今後も、学校や地域等で規則正しい生活の大切さを学び、家族みんなで規則正しい生活に取り組むことが大切です。

(3) 青年期(19～39歳)実態調査

課題名	項目	2005年度 現状	2010年度 目標値	2010年度 現状	推進度 (前回対 比)	目標達 成度
ボランティア 活動	趣味や生きがいを持っている人の割合を増やす	男性 85.0% 女性 74.3%	90.0%	男性 90.6% 女性 80.0%	○	△
	ボランティア活動をしている人の割合を増やす	男性 17.9% 女性 9.5%	30.0%	男性 21.5% 女性 10.6%	○	×
ストレス対処	自分自身のストレス解消法のある人の割合を増やす	男性 76.5% 女性 77.5%	85.0%	男性 82.4% 女性 80.9%	○	×
防煙・禁煙・ 分煙	タバコを吸っている人の割合を減らす	男性 48.1% 女性 15.4%	男性 40.0% 女性 10.0%	男性 34.9% 女性 11.7%	○	△
	喫煙が及ぼす健康影響について知っている人の割合を増やす					
	喘息	男性 40.2% 女性 42.4%	50.0%	男性 50.6% 女性 48.2%	○	△
	心臓病	男性 34.3% 女性 29.4%	50.0%	男性 36.5% 女性 39.3%	○	×
	脳卒中	男性 44.5% 女性 36.8%	50.0%	男性 52.9% 女性 56.3%	○	○
	胃潰瘍	男性 24.0% 女性 18.6%	50.0%	男性 25.9% 女性 24.1%	○	×
	妊娠に関連した異常	男性 48.0% 女性 82.1%	男性 50.0% 女性 90.0%	男性 65.9% 女性 81.3%	○	△
	歯周病	男性 35.1% 女性 39.3%	50.0%	男性 41.2% 女性 48.2%	○	×
身体活動・運動	日頃から健康維持増進のために意識的に体を動かすよう心がけている人の割合を増やす	男性 15.8% 女性 11.2%	男性 20.0% 女性 15.0%	男性 10.7% 女性 12.7%	△	×
	運動習慣を持っている人の割合を増やす	男性 17.3% 女性 8.2%	男性 30.0% 女性 20.0%	男性 14.3% 女性 10.8%	△	×
礼節を心がける(あいさつ)	自分から進んで挨拶する人の割合を増やす	男性 48.5% 女性 59.7%	男性 60.0% 女性 70.0%	男性 48.1% 女性 61.0%	△	×

調査結果からみた課題

●ボランティア活動

趣味や生きがいを持っている人の割合は、男性5.6ポイント、女性で5.7ポイント増えており、男性は目標値90.0%に達していますが、女性は達していません。

ボランティア活動をしている人の割合は、男性3.6ポイント、女性で1.1ポイント増えていますが、目標値には達していません。自分ができることから始めるボランティア活動を活発化するための支援が今後必要です。

●ストレス対処

自分自身のストレス解消法のある人の割合は、男性5.9ポイント、女性で3.4ポイント増えていますが、目標値には達していません。自分なりのストレスへの対処方法をみつけ、ストレスとうまくつきあっていくことが必要です。また、こころの相談などの相談体制の充実が必要です。

●防煙・禁煙・分煙

タバコを吸っている人の割合は、男性13.2ポイントに達し、女性3.7ポイント減り目標値には達成していません。

喫煙が及ぼす健康影響について知っている人の割合の各項目別（喘息、心臓病、脳卒中、胃潰瘍、妊娠に関連した異常、歯周病）で、男性が1.9ポイント～17.9ポイント増えており、女性も「妊娠に関連した異常」を除く項目については、5.5ポイント～19.5ポイント増えていますが、「妊娠に関連した異常」については、0.8ポイント減っています。「脳卒中」は男女とも達成しています。また、「喘息」と「妊娠に関連した異常」の男性が目標値を達成しました。

今後も、禁煙に対する支援が必要です。分煙では、公民館や職場や家庭での取り組みが重要です。また、妊娠子育て時の影響が懸念され、喫煙や飲酒の身体への害を知ることが重要です。

●身体活動・運動

日頃から健康維持増進のために意識的に体を動かすことを心がけている人の割合は、男性は5.1ポイント減り、女性は1.5ポイント増えています。また、運動習慣を持っている人の割合が、男性は3.0ポイント減り、女性は2.6ポイント増えています。いずれも、目標値には達していません。今後も、地域や職場などで運動習慣づくりの啓発と環境づくりが必要です。

●礼節を心がける（あいさつ）

自分から進んで挨拶する人の割合が、男性は0.4ポイント減り、女性は1.3ポイント増えていますが、目標値に男女とも達していないため、今後も、家庭や地域などでのあいさつ運動の啓発が必要です。

(4) 壮年期(40~64歳)実態調査

課題名	項目	2005年度 現状	2010年度 目標値	2010年度 現状	推進度 (前回対 比)	目標達 成度
休養	最近1ヶ月間にストレスを感じた人の割合を減らす	男性 67.6% 女性 73.7%	60.0%	男性 66.7% 女性 74.3%	△	×
	睡眠による休養を十分にとれていない人の割合を減らす	男性 26.2% 女性 28.2%	20.0%	男性 26.4% 女性 26.0%	△	×
家族のきずなを深める	重要なことは家族とよく相談している人の割合を増やす	男性 74.8% 女性 74.7%	90.0%	男性 66.7% 女性 68.2%	×	×
防煙・禁煙・分煙	タバコを吸っている人の割合を減らす	男性 45.8% 女性 8.9%	男性 40.0% 女性 7.0%	男性 36.3% 女性 10.9%	△	△
	喫煙が及ぼす健康影響について知っている人の割合を増やす					
	喘息	男性 34.7% 女性 42.0%	50.0%	男性 44.0% 女性 51.0%	○	△
	心臓病	男性 40.8% 女性 35.9%	50.0%	男性 49.1% 女性 44.6%	○	×
	脳卒中	男性 37.6% 女性 32.9%	50.0%	男性 52.2% 女性 48.2%	○	△
	胃潰瘍	男性 23.1% 女性 17.2%	50.0%	男性 27.7% 女性 17.9%	○	×
	妊娠に関連した異常	男性 38.2% 女性 65.8%	男性 50.0% 女性 90.0%	男性 40.9% 女性 69.7%	○	×
良い食習慣を持つ	自分の適性体重を維持することのできる食事量を理解している人の割合を増やす	男性 31.3% 女性 39.6%	50.0%	男性 41.6% 女性 54.7%	○	△
	朝食を欠食する人の割合を減らす	男性 16.8% 女性 7.9%	5.0%	男性 15.8% 女性 10.0%	○	△
アルコール対処	1日に飲むお酒の適量を知っている人の割合を増やす	男性 64.4% 女性 90.6%	100.0%	男性 65.8% 女性 91.6%	○	×
世代交流	1年間地域活動や催し物に参加した人の割合を増やす	男性 71.1% 女性 67.3%	90.0%	男性 83.9% 女性 68.8%	○	×

課題名	項目	2005年度 現状	2010年度 目標値	2010年度 現状	推進度 (前回対 比)	目標達 成度
地域生活・活動	郡上市にずっと住み続けたいと思う人の割合を増やす	男性 89.7% 女性 89.0%	95.0%	男性 90.1% 女性 87.8%	△	×
ボランティア活動	ボランティア活動をしている人の割合を増やす	男性 25.5% 女性 20.7%	30.0%	男性 33.5% 女性 19.2%	△	△
生活や介護の支援	近所に介護を必要とする人がいたとき手伝おうと思う人の割合を増やす	男性 24.9%	60.0%	男性 32.5%	○	○
		女性 34.5%		女性 38.1%	○	×

調査結果からみた課題

●休養

最近1ヶ月間にストレスを感じた人の割合が、男性0.9ポイント減り、女性で0.6ポイントと若干増え、目標値に達していません。

睡眠による休養を十分にとれていない人の割合が、男性0.2ポイント増え、女性で2.2ポイント減っています。いずれも、男女共に目標値には達していません。今後も、規則正しい生活と、十分な休養をとるように心がけるとともに、自分なりのストレスへの対処方法を見つけ、ストレスとうまくつきあっていくことが必要です。

●家族のきずなを深める

重要なことは家族とよく相談している人の割合は、男性が8.1ポイント、女性は6.5ポイント減っています。男女共に目標値には達していません。今後も、家族で過ごす時間を大切に会話のある家庭づくりが必要です。

●防煙・禁煙・分煙

タバコを吸っている人の割合は男性が9.5ポイント減り目標に達成しました。また、女性は2.0ポイント増えており、目標には達していません。

喫煙が及ぼす健康影響について知っている人の割合の各項目別（喘息、心臓病、脳卒中、胃潰瘍、妊娠に関連した異常、歯周病）で、男性が2.3ポイント～14.6ポイント増えており、女性も0.7ポイント～15.3ポイント増えています。また、「喘息」は女性が、「脳卒中」は男性が目標に達成しました。

今後も、禁煙に対する支援が必要です。分煙では、公民館や職場や家庭での取り組みが重要です。また、受動喫煙の害を知ることも重要です。

●良い食習慣を持つ

自分の適性体重を維持することのできる食事量を理解している人の割合が、男性10.3ポイント、女性15.1ポイント増えていますが、目標値には達成していません。また、朝

食を欠食する人の割合も、男性は1.0ポイント減ったものの、女性が2.1ポイント増えており、目標値に達成していないため、今後も、家族と共に規則正しいバランスのとれた食生活を心がけることが必要です。また、自分のからだと健康状態に合わせて、量より質を考えたバランスの良い食事をとることが必要です。

●アルコール対処

1日に飲むお酒の適量を知っている人の割合は、男性1.4ポイント、女性1.0ポイント増えていますが、目標値には達していません。休肝日をつくるなどの、節度ある適量の飲酒に心がけることや飲酒について学ぶ機会の支援が必要です。

●世代交流

1年間地域活動や催し物に参加した人の割合は、男性12.8ポイント、女性1.5ポイント増えていますが、目標値には達していません。地域の中で世代を超えた集まりに、家族そろって参加することが必要です。

●地域生活・活動

郡上市にずっと住み続けたいと思う人の割合は、男性0.4ポイント増え、女性1.2ポイント減っており目標値に達していません。今後も、地域の中で気軽に寄り合える場を設けるなどの支援が必要です。

●ボランティア活動

ボランティア活動をしている人の割合は、男性8.0ポイント増えましたが、女性1.5ポイント減っています。男性は目標値に達しました。今後も、家族そろってのボランティア活動など支援体制の充実が必要です。

●生活や介護の支援

近所に介護を必要とする人がいたとき手伝おうと思う人の割合は、男性7.6ポイント、女性3.6ポイントと増えていますが、目標値には達していません。

今後も、介護方法や認知症等の理解のために、介護の技術や知識を習得する機会が必要です。

(5) 実年期(65～74歳)実態調査

課題名	項目	2005年度 現状	2010年度 目標値	2010年度 現状	推進度 (前回対 比)	目標達 成度
介護予防	認知症や寝たきりにならないための学習会へ参加したい人の割合を増やす	男性 58.7% 女性 80.9%	男性 70.0% 女性 90.0%	男性 58.3% 女性 74.9%	×	×
趣味・生きがいを持つ	趣味や生きがいがある人の割合を増やす	男性 79.9% 女性 81.9%	90.0%	男性 87.6% 女性 85.4%	○	×
	ボランティア活動に参加している人の割合を増やす	男性 22.8% 女性 18.4%	30.0%	男性 39.7% 女性 26.8%	○	△
健診を受ける	過去1年間に検診や人間ドックを受けた人の割合を増やす	男性 84.1% 女性 84.6%	90.0%	男性 83.4% 女性 83.3%	×	×
身体活動・運動	健康のために歩くなど体を動かすようにしている人の割合を増やす	男性 76.7% 女性 84.3%	90.0%	男性 83.0% 女性 86.7%	○	×
	自分と一緒に運動してくれる仲間がいる人の割合を増やす	男性 37.9% 女性 51.1%	男性 50.0% 女性 60.0%	男性 48.6% 女性 56.4%	○	×
外出	バスや電車を使って一人で外出できる人の割合を増やす	男性 89.9% 女性 87.9%	95.0%	男性 92.7% 女性 92.7%	○	×
	散歩や買い物など積極的に外に出かけることのある人の割合を増やす	男性 82.5% 女性 68.8%	85.0%	男性 84.5% 女性 81.6%	○	×
世代交流	1年間に地域の活動や催し物に参加したことがある人の割合を増やす	男性 67.4% 女性 60.1%	80.0%	男性 83.5% 女性 70.1%	○	△
良い食習慣を持つ	牛乳、乳製品をほぼ毎日食べる人の割合を増やす	男性 36.8% 女性 45.8%	60.0%	男性 37.1% 女性 44.7%	△	×
	タンパク質の食品をほぼ毎日食べている人の割合を増やす	男性 55.6% 女性 58.0%	90.0%	男性 56.8% 女性 53.2%	△	×

課題名	項目	2005年度 現状	2010年度 目標値	2010年度 現状	推進度 (前回対 比)	目標達 成度
良い歯を持つ	しっかり噛むことができる 人の割合を増やす	男性 52.0% 女性 46.9%	70.0%	男性 43.3% 女性 49.4%	△	×
	歯や口の中のことで気にな ることがある人の割合を減 らす	男性 54.1% 女性 49.9%	40.0%	男性 49.2% 女性 46.5%	○	×
集う	友達の家を訪ねることがあ る人の割合を増やす	男性 67.5% 女性 81.6%	男性 80.0% 女性 90.0%	男性 79.8% 女性 88.3%	○	×
	友達と話す機会がある人の 割合を増やす	男性 91.0% 女性 94.2%	95.0%	男性 95.8% 女性 95.7%	○	○
	若い人に自分から話かける 人の割合を増やす	男性 84.4% 女性 86.2%	—	—	—	—

調査結果からみた課題

●介護予防

認知症や寝たきりにならない為の学習会へ参加したい人の割合は、男性 0.4 ポイント、女性 6.0 ポイント減っており、目標値には達していません。

今後も身近なところでの学習会の開催や周知を徹底していくことが必要です。

●趣味・生きがいを持つ

趣味や生きがいのある人の割合は、男性 7.7 ポイント、女性 3.5 ポイント増えていますが、目標値には達していません。

ボランティア活動に参加している人の割合は、男性 16.9 ポイント、女性 8.4 ポイント増えていますが、女性は目標値には達していません。

ボランティア活動を行うことは、高齢者自身の閉じこもり予防になるばかりではなく、高齢者自身の趣味・生きがいにつながります。シニアクラブ活動やシルバー人材センターの活動を通じて推進していきます。

●健診を受ける

過去 1 年間に健診や人間ドックを受けた人の割合は、男性 0.7 ポイント、女性 1.3 ポイント減少しており、目標値には達していません。

健診制度をより分かりやすく市民に周知し、自治会等を通じて、誘いあって受ける体制づくりが重要です。

●身体活動・運動

健康のために歩くなど身体を動かすようにしている人の割合は、男性 6.3 ポイント、女性 2.4 ポイント増えていますが、目標値には達していません。

自分と一緒に運動してくれる仲間がいる人の割合は、男性 10.7 ポイント、女性 5.3 ポイント増えており、ほぼ目標値には達しています。

高齢者の腰・膝等の痛みによる日常生活への支障は、高齢者の閉じこもりの大きな要因となるため、高齢者が自立した生活を維持するためには、筋骨格器系疾患の予防は重要です。そのために市民が気軽に運動ができるように、体操や軽スポーツなど運動の普及を関係機関と連携して進めることが大切です。

●外出

バスや電車を使って一人で外出できる人の割合は、男性 2.8 ポイント、女性 4.8 ポイント増えており、ほぼ目標値には達しています。

散歩や買い物など積極的に外に出かけることのある人の割合は、男性 2.0 ポイント、女性 12.8 ポイント増えており、ほぼ目標値には達しています。

積極的に外に出る事は、寝たきり予防や、認知症予防に大きな効果があります。今後も高齢者が安心して外出できるような環境づくりが必要です。

●世代交流

1 年間に地域の活動や催し物に参加したことがある人の割合は、男性 16.1 ポイント、女性 10.0 ポイント増えていきます。男性は目標値には達していますが、女性は達していません。

地域に暮らす身近な人との交流を深めることや、世代交流ができる行事を関係部署と連携して進めていくことが重要です。

●良い食習慣をもつ

牛乳、乳製品をほぼ毎日食べる人の割合は、男性 0.3 ポイント減り、女性 1.1 ポイント増えていますが、いずれも目標値には達していません。

タンパク質の食品をほぼ毎日食べている人の割合は、男性 1.2 ポイント増え、女性 4.8 ポイント減っていますが、いずれも目標値には達していません。

高齢者向けの料理教室の開催の周知や、仲間で集まってバランスのいい食生活を共に学ぶ機会づくりが大切です。

●良い歯を持つ

しっかり噛むことができる人の割合は、男性 8.7 ポイント減り、女性 2.5 ポイント増えており、目標値には達していません。

歯や口の中で気になることがある人の割合は、男性 4.9 ポイント、女性 3.4 ポイント減っており、目標値には達していません。

高齢者が歯や飲み込みなど口腔機能について知識を深めるために、今後も「8020運動」を普及啓発していくことが必要です。

●集う

友達の家を訪ねることがある人の割合は、男性 12.3 ポイント、女性 6.7 ポイント増えており、ほぼ目標値には達しています。

身近な公民館などを集いの場として、趣味や生きがいつくりなど集いの場が各地域に広がるような支援が必要です。

(6) 高齢期(75歳～)実態調査

課題名	項目	2005年度 現状	2010年度 目標値	2010年度 現状	推進度 (前回対 比)	目標達 成度
集う	友達の家を訪ねることがある人の割合を増やす	男性 62.5% 女性 71.2%	男性 70.0% 女性 80.0%	男性 74.3% 女性 84.4%	○	○
	友達と話す機会がある人の割合を増やす	男性 80.8% 女性 88.2%	90.0%	男性 90.2% 女性 94.3%	○	○
	若い人に自分から話しかける人の割合を増やす	男性 73.2% 女性 77.0%	—	—	—	—
外出	バスや電車を使って一人で外出できる人の割合を増やす	男性 74.9% 女性 72.0%	80.0%	男性 88.1% 女性 87.1%	○	○
	散歩や買い物など積極的に外に出かけることのある人の割合を増やす	男性 72.0% 女性 55.0%	男性 80.0% 女性 70.0%	男性 82.1% 女性 66.5%	○	△
世代交流	過去1年間に地域の活動や催し物に参加したことがある人の割合を増やす	男性 57.4% 女性 53.5%	70.0%	男性 70.5% 女性 70.3%	○	○
身体活動・運動	健康のために歩くなど体を動かすようにしている人の割合を増やす	男性 83.7% 女性 83.9%	90.0%	男性 90.2% 女性 85.0%	○	△
	自分と一緒に運動してくれる仲間がいる人の割合を増やす	男性 39.3% 女性 44.2%	50.0%	男性 43.8% 女性 54.0%	○	△
趣味・生きがいを持つ	趣味や生きがいがある人の割合を増やす	男性 75.8% 女性 70.3%	90.0%	男性 85.2% 女性 82.2%	○	×
	ボランティア活動に参加している人の割合を増やす	男性 19.1% 女性 11.4%	30.0%	男性 28.3% 女性 18.2%	○	×
介護予防	新聞を読んでいる人の割合を増やす	男性 87.7% 女性 74.2%	90.0%	男性 91.3% 女性 78.2%	○	△
	認知症や寝たきりにならないための学習会へ参加したい人の割合を増やす	男性 61.7% 女性 73.5%	男性 80.0% 女性 90.0%	男性 56.6% 女性 74.4%	△	×

調査結果からみた課題

●集う

友だちの家を訪ねる事がある人の割合は、男性 11.8 ポイント、女性 13.2 ポイント増えており、目標値には達しています。

身近な公民館などを集いの場として、趣味や生きがいづくりなど集いの場が各地域に広がるような支援が必要です。

●外出

バスや電車を使って一人で外出できる人の割合は、男性 13.2 ポイント、女性 15.1 ポイント増えており、目標値には達しています。

散歩や買い物など積極的に外に出かけることのある人の割合は、男性 10.1 ポイント、女性 11.5 ポイント増えており、ほぼ目標値には達しています。

積極的に外に出ることは、寝たきり予防や、認知症予防に大きな効果があります。今後も高齢者が安心して外出できるような環境づくりが必要です。

●世代交流

1年間に地域の活動や催し物に参加したことがある人の割合は、男性 13.1 ポイント、女性 16.8 ポイント増えており、ほぼ目標値には達しています。

地域に暮らす身近な人との交流を深めることや、世代交流ができる行事を今後も関係部署と連携して進めていくことが重要です。

●身体活動・運動

健康のために歩くなど身体を動かすようにしている人の割合は、男性 6.5 ポイント、女性 1.1 ポイント増えており、ほぼ目標値には達しています。

自分と一緒に運動してくれる仲間がいる人の割合は、男性 4.5 ポイント、女性 9.8 ポイント増えており、ほぼ目標値には達しています。

高齢者の腰・膝等の痛みによる日常生活への支障は、高齢者の閉じこもりの大きな要因となるため、高齢者が自立した生活を維持するためには、筋骨格器系疾患の予防は重要です。そのために市民が気軽に運動ができるように体操や軽スポーツなどの普及を関係機関と連携して進めることが大切です。

●趣味・生きがいを持つ

趣味や生きがいのある人の割合は、男性 9.4 ポイント、女性 11.9 ポイントと増えていますが、目標値には達していません。

ボランティア活動に参加している人の割合は、男性 9.2 ポイント、女性 6.8 ポイント増えていますが、目標値には達していません。

ボランティア活動を行う事は、高齢者自身の閉じこもり予防になるばかりではなく、高齢者自身の趣味・生きがいにつながります。シニアクラブ活動やシルバー人材センターの活動を通じて推進していきます。

●介護予防

新聞を読んでいる人の割合は、男性 3.6 ポイント、女性 4.0 ポイント増えており、
目標値には達しています。

認知症や寝たきりにならない為の学習会へ参加したい人の割合は、男性 5.1 ポイント
減り、女性 0.9 ポイント増えていますが、目標値には達していません。

今後も、身近なところでの学習会の開催や周知を徹底していくことが必要です。

(7) 介護者(介護保険要介護認定者で在宅サービス利用者の介護者)実態調査

課題名	項目	2005年度 現状	2010年度 目標値	2010年度 現状	推進度 (前回対 比)	目標達 成度
(介護者の) ストレス対処	介護に対しストレスを感じ ている人の割合を減らす	71.2%	60.0%	80.9%	×	×
	ストレスを感じている人で ストレスを解消できている 人の割合を増やす	54.1%	70.0%	66.3%	○	×
	介護を誰かに任せてしまい たいと思う人の割合を減らす	54.5%	40.0%	72.6%	×	×
生活や介護の 支援	介護について家族の協力の ある人の割合を増やす	64.3%	80.0%	60.7%	×	×
	介護の協力者がいる人の割 合を増やす	78.9%	90.0%	77.9%	×	×
	介護がある人で自分の社会 参加が減ったと思う人の割 合を減らす	43.0%	30.0%	51.3%	×	×
	要介護高齢者がいるので友 達を自宅に呼べないと思う 人の割合を減らす	40.8%	30.0%	52.0%	×	×
	介護について近所の理解が ある人の割合を増やす	89.7%	95.0%	95.0%	○	○
	介護の相談ができる人がい る人の割合を増やす	81.4%	90.0%	87.5%	○	×
	要介護高齢者に対しどうして よいかかわからないと思うこ とがある人の割合を減らす	56.2%	40.0%	81.0%	×	×
	担当ケアマネジャーを知ら ない人の割合を減らす	6.9%	0.0%	5.7%	○	×
	介護のために家族や友達と 付き合いづらくなっている と思う人の割合を減らす	48.6%	30.0%	62.3%	×	×

調査結果からみた課題

●（介護者の）ストレス対処

介護に対しストレスと感じている人の割合は、9.7ポイント増えており、目標値には達していません。

ストレスを感じている人でストレスを解消できている人の割合は、12.2ポイント増えていますが、目標値には達していません。

介護を誰かに任せたいと思う人の割合は18.1ポイント増えていますが、目標値には達していません。

介護者のストレス解消や介護負担の軽減の為に、在宅介護サービスの充実や介護者を支援する仕組み作りを検討していく必要があります。なお、介護を誰かにまかせてしまいたいと思う割合が増えた要因としては、介護保険制度の普及により利用しやすくなったことも考えられます。

●生活や介護の支援

介護について家族の協力のある人の割合は、3.6ポイント減っており、目標値には達していません。

介護の協力者がいる人の割合は、1.0ポイント減っており、目標値には達していません。

介護がある人で自分の社会参加が減ったと思う人の割合は、8.3ポイント増えており、目標値に達していません。

要介護高齢者がいるので友だちを自宅に呼べないと思う人の割合は、11.2ポイント増えており、目標値には達していません。

介護について近所の理解がある人の割合は、5.3ポイント増え、目標値には達していません。

介護の相談ができる人がいる人の割合は6.1ポイント増えましたが、目標値には達していません。

要介護高齢者に対しどうしてよいか分からないと思うことがある人の割合は24.8ポイント増えており、目標値には達していません。

担当ケアマネジャーを知らない人の割合は、1.2ポイント減っていますが、目標値には達していません。

介護のために家族や友達と付き合いづらくなっていると思う人の割合は、13.7ポイント増えており、目標値には達していません。

在宅介護における心身の介護負担は、家族の介護協力や隣近所の人たちの理解が増えているという調査結果より軽減されてきたと思われる反面、まだまだ介護者の負担や不安な思いがあるようです。介護保険制度における在宅介護サービスのみでは、介護者を支えていくことは困難です。

地域全体で介護者を支えるという仕組みづくりを考えることが必要です。

(8) 産婦 実態調査

課題名	項目	2005年度 現状	2010年度 目標値	2010年度 現状	推進度 (前回対比)	目標達成 度
子育て	子どもを虐待しているのではないかと思う人の割合を減らす	8.1%	4.1%	7.3%	○	×
	育児に負担を感じている人の割合を減らす	55.7%	30.0%	52.3%	○	×
	父親の育児参加や協力を満足している人の割合を増やす	61.9%	80.0%	71.9%	○	×
	妊娠育児を通じて仲間と集う場やサークルに参加している人の割合を増やす	70.6%	95.0%	81.5%	○	×
	妊娠中不安になったことがある人の割合を減らす	71.6%	40.0%	69.4%	○	×
	楽しんで育児をしている人の割合を増やす	96.3%	100.0%	94.9%	×	×
アルコール 対処	妊娠中にお酒を飲んでいる人の割合を減らす	18.3%	0.0%	10.7%	○	×
防煙・禁煙・ 分煙	妊娠中にタバコを吸っていた人の割合を減らす	4.8%	0.0%	5.1%	×	×
	子どものいる部屋でタバコを吸う人がいる家庭の割合を減らす	34.7%	0.0%	24.8%	○	×
事故予防	救急法を知っている人の割合を増やす	83.9%	95.0%	85.6%	○	×

調査結果からみた課題**●子育て**

子どもを虐待しているのではないかと思う人の割合は、0.8ポイント減っていますが、目標値には達していません。

育児に負担を感じている人の割合は、3.4ポイント減っていますが、目標値には達していません。

父親の育児参加や協力を満足している人の割合は、10.0ポイント増えていますが、目標値には達していません。

妊娠育児を通じて仲間と集う場やサークルに参加している人の割合は、10.9ポイント増えていますが、目標値には達していません。

妊娠中不安になったことがある人の割合は、2.2ポイント減っていますが、目標値には達していません。

楽しんで育児をしている人の割合は、1.4ポイント減っており、目標値には達していません。

今後も、楽しんで子育てができるよう、家族や地域で子育て中の母親を支援し、母親が不安や悩みを気軽に相談できる環境づくりが必要です。

●アルコール対処

妊娠中にお酒を飲んでいる人の割合は、7.6ポイント減っていますが、目標値には達していません。

今後も、安全な妊娠・出産のために、妊娠中の飲酒の影響について学び、家族で飲酒習慣を見直すことが必要です。

●防煙・禁煙・分煙

妊娠中にタバコを吸っていた人の割合は、0.3ポイント増えており、目標値には達していません。

子どものいる部屋でタバコを吸う人がいる家庭の割合は、9.9ポイント減っていますが、目標値には達していません。

今後も、安全な妊娠・出産のために、妊娠中の喫煙の影響について学び、家族で喫煙習慣を見直すことが必要です。

●事故予防

救急法を知っている人の割合は、1.7ポイント増えていますが、目標値には達していません。

今後も、救急法について学ぶ機会をもつことが必要です。

3 健康福祉推進協議会委員の課題に対する取り組み状況

取り組み状況一覧表上段の「**世代毎の健康福祉課題**」は、市民の皆さんを対象としたグループインタビューや実態把握調査等の結果に基づいて「健康福祉推進計画」策定時に掲げたものです。

市内の各種団体や組織の代表者等で構成する健康福祉推進協議会では、各種団体等の継続的な活動を通して「健康福祉推進計画」の推進を図っていますが、「**世代毎の健康福祉課題**」の解決に向け市民が主体的かつ自主的に行う取り組みについて、健康福祉推進協議会委員の皆さんが活動状況等を報告されたものを取り組み状況一覧表にまとめました。

